

近藤拓郎

ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ 2022 年度派遣

語学研修：英語、スロベニア語

企業研修：Hidria d.o.o. (スロベニア、トールミン)

プログラムへの参加理由

私がプログラムに参加することを決意した理由は、学生の中に海外の企業で働く経験をしてみたいと考えていたからです。私は小さい頃から海外で働くことに憧れを抱いていたのですが、旅行以外の海外経験がなかったことから、海外での仕事に対する理想と現実にギャップがないのかを検証したいと思い、プログラムに応募しました。

研修先としてスロベニアの企業を選んだ理由は、前情報があまりないような未知の環境に身を置くことで、環境の変化に柔軟に対応できる人への成長が見込めると考えたからです。

語学研修 (オンライン)

・スロベニア語研修

最初の 1 ヶ月半は現地大学の講師の方から、スロベニア語を教えてもらいました。スロベニア語は話者数が少ない言語なので、日本にほとんど教材が売られておらず、語学研修が始まる前まで予習はあまりできていなかったです。語学研修が始まってからは、教材を 2 冊郵送してもらい、講義の内容はその教材をベースとしたものでした。今まで勉強したことがない言語だったので、基礎的な単語や発音から学び始め、最終的にはスロベニア語の簡単な文章を読み書き・発音できるレベルまで成長しました。語学研修を受ける学生は自分と、もう一人のスロベニア派遣生のみだったので、理解できない部分があった時に質問しやすい環境でした。

・英語研修

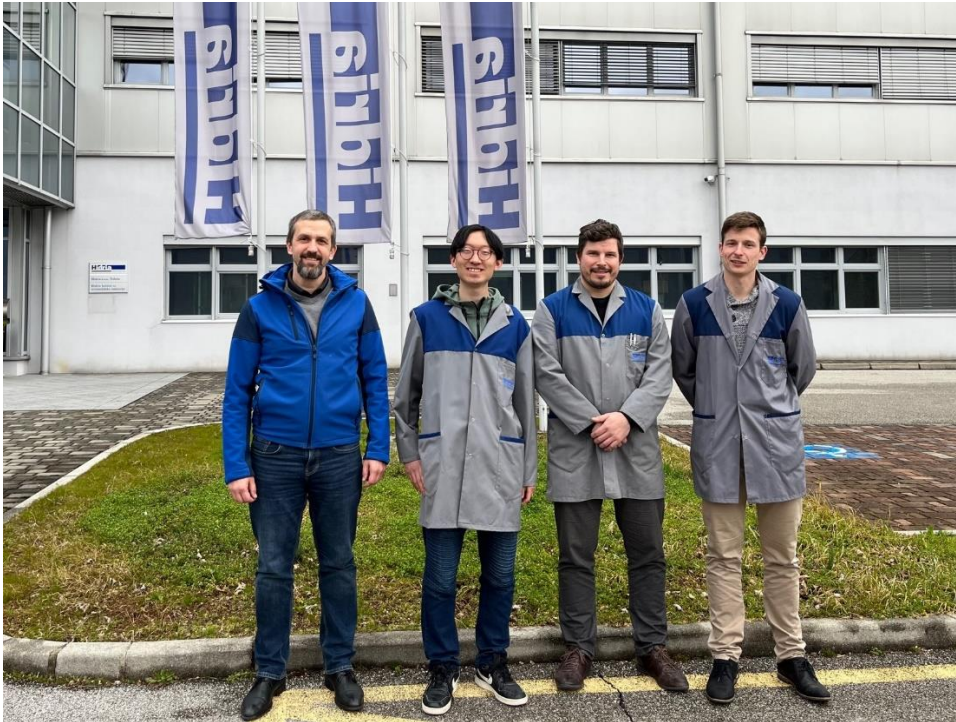
5 月中旬からはアイルランドの語学学校で、2 ヶ月半の語学研修を受けました。最初に簡単なテスト (最初のクラス振り分け用) を受け、B2 クラスでの講義が始まりました。スロベニア語研修の時と講義スタイルは大きく異なり、講師に対して学生数は多く (10~15 人程)、少し質問し辛い環境に最初は戸惑いました。また、想像していたよりも講義の内容が難しく、自分の当時のリスニング・スピーキング力では講義についていけなかったため、別途 DMM 英会話を契約し、英語での会話に慣れるように努力していました。あまり余裕はなかったものの、最終的には英語力 B2 レベルの認定証をもらい、特にスピーキング力は語学研修を始めた当初とは比べ物にならない程、上達しました。

企業研修

8月上旬にスロベニアに入国しました。入国時には就労ビザを取得できていなかったため、企業研修先にはすぐには向かわず、首都のリュブリャナ周辺で3週間ほど過ごしました（ビザの取得手続きが予定日より遅くなったため、企業研修開始も少し遅くなりました）。渡航後のビザ取得の手続きに関しては、日欧産業協力センターの方で現地の弁護士を雇っていただいていたので、行政機関との意思疎通トラブルも特になかったです。

ビザを取得してすぐ、企業研修先のトールミンに移動し、Hidria d.o.o.での仕事を始めました。Hidria d.o.o.は産業用機械や自動車に使われる様々な部品を開発・生産している会社です。この会社の製品のひとつに圧電センサーというものがあり、私が配属されたプロジェクトでは、顧客が有している圧電センサーのデータをリアルタイムで解析することができるwebアプリケーションの開発をしていました。プロジェクト内における私の役割は大きく2つあり、①アプリのUIデザインと②アプリ-クラウドデータベース間のデータ処理でした。まず、アプリのUIデザインに関して、チーム内の話し合いで定義したサービスの要件を満たすシステムを、ユーザーにとって使いやすくなるようにデザインしていました。そのデザインは上司からアドバイスをもらうたびに改善を繰り返していました。アプリ-クラウドデータベース間のデータ処理に関して、当プロジェクトではマイクロソフト社の Azure というクラウドサービスを利用して、データベース上の膨大な顧客データを処理し、処理後のデータを低遅延でアプリに表示させるような仕組みを開発していました。

プロジェクトへの配属当初は、C#や javascript などのプログラミング言語や、クラウド上のデータを処理する経験は初めてだったので、わからないことが多くてとても苦労していました。しかし、上司が随時丁寧にフォローしてくれて、時間が経過するごとにできることが増えていきました。最終的には、定義された要件に対して、ある程度自分の力だけで解決することができるようになりました。仕事を通じて学んだプログラミングの知識や英語の文章の読解力は、大学院での研究活動で生きており、社会に出た後も間違いなく活かせると確信しています。



プロジェクトメンバー

全体的な印象

まず、トールミンに関して、自然がとても豊かで人口もかなり少ない町であるため、とても静かで過ごしやすい街だという印象でした。近隣住民の人たちは皆とても優しく、普段からこやかに接してくれました。夏場はカヌーや川遊び、冬場はスキーなど、季節ごとに楽しめる自然を活用したレジャースポットが近くに複数あったため、アウトドアスポーツが好きな人にとっては、1年を通じて飽きが来ない街だと思います。基本的に素敵な街なのだが、欠点を挙げるとすると、交通の便が不便という点と、レストランや食料雑貨店の量がかなり少ないという点です。交通の便に関して、最寄りの空港まで最短でも3時間ほどかかり、便数もかなり少ないため、旅行をする時は移動に1日要することが多々あり、苦労することもありました。そのため、長期的に住むとしたら、自家用車は必須だと会社の人から言われてました。レストランや食料雑貨店の量に関して、住んでいる家から半径1km以内にレストランや食料雑貨店は1つずつあるのみで、土日は空いていないことも多かったため、家にある食料品を注意深く管理する必要があり、少し不便だと感じることもありました。

次に Hidria に関して、上司も含めて社員の方々はフレンドリーな人が多く、仕事に関することだけでなく、周辺の観光地やレジャーのこと、便利なサービスの紹介など、日常生活に関わることも教えてくれて、相談したいことがあったら親身に話を聞いてくれる人ばかりでした。会社内の食堂やコーヒーを飲む休憩室で会った時には、話しかけてくれる人が多く、私を仲間として受け入れてくれて、会社内で過ごしやすいように雰囲気づくりをして

くれたので、社員の方々全員にとっても感謝しています。また、コミュニケーションの仕方に関しても、参考にすべきだと思うことは多くありました。研修開始直後、英語でのやり取りも流暢にできなかった私の発言に対して、必ず理解できるまで質問し続けてくれる人が多く、相手との信頼関係を構築する上では大事なことであると感じました。現在は Hidria の方々の相手への向き合い方を参考に、コミュニケーションの仕方を見つめ直し、意識的に相手への理解を深めるような会話を心掛けています。



トールミンの雄大な自然

最後に

海外での研修を振り返り、関係者の皆様の存在があったからこそ無事に修了することができたのだと、常々思います。語学力・技術力共に未熟な私を快く受け入れ貴重な経験をさせてくださった Hidria d.o.o.の方々、海外で慣れない生活を送る中で心の支えになってくれた同期の研修生たち、そして、研修期間中私たち研修生のことを常に気に掛けてサポートしてくださった日欧産業協力センターの方々に心より感謝いたしております。

(2023年 執筆)